

## 【2013年4月】

### 高体連 春季大会兼東海高校総体県予選会 伊勢学園が優勝

4月27（土）、28日（日）、29（月）女子は伊勢市大仏山公園と三重高校グラウンドで、男子は亀山市東野公園開催された。3日間とも晴天に恵まれ、予定通り大会を終了することができた。

27日は晴天に恵まれたもののやや小寒いなか1回戦が行われた。乱打戦のなか鈴鹿、三重、セントヨゼフ、上野、四日市商業、松阪が勝ち進んだ。28日は三重高校と大仏山公園スポーツセンターと2会場で実施され、それぞれシードの伊勢学園、津商業、いなべ総合、宇治山田商業が勝ち上がった。29日は温かな天気にも恵まれ、準決勝は宇治山田商業 6－1 いなべ総合、伊勢学園 5－0 津商業で宇治山田商業、伊勢学園がそれぞれ打ち勝ち残った。

決勝戦は白熱した試合で伊勢学園が2回、福井彩菜の本塁打で先行し、3回には相手投手の乱れの中、またしても福井のタイムリーで1点を追加して2－0で勝利をものにした。山商は走者を出すもあと一本が出ず得点が入らず涙をのんだ。伊勢学園は2年連続7度目の優勝を飾った。

### 三重県一般男子大会 宮前タローズ3年ぶり3度目の優勝を飾る

4月28日（日）、四日市市垂坂グラウンドで三重県一般男子大会が間もなく開催されます。各支部から10チームが参加。天候にも恵まれ全国大会を目指して熱戦を展開しました。

【試合結果】＜1回戦＞

新町クラブ 5－1 2 外城田ミックス 能褒野クラブ 1 6－3 ブリジストン SC

＜2回戦＞

四日市クラブ 1 8－1 6 外城田ミックス ネッシーズ 1 1－2 ベントレー

宮前タローズ 7－0 岡崎組、能褒野クラブ 1 2－1 0 市木黒潮

＜準決勝＞

ネッシーズ 4－0 四日市クラブ

宮前タローズ 9－2 能褒野クラブ

＜決勝＞

宮前タローズ 5－2 ネッシーズ

**優勝は宮前タローズ 3年ぶり3度目の優勝**

全国大会は8月10日～12日 山形県酒田市

## 日本女子1部リーグの開幕節、刺激的な試合展開続く

日本の女子ソフトボールのトップチームで戦う日本女子1部リーグの開幕節が開催されました。

4月20日、21日、名古屋市ナゴヤドームで第46回日本女子1部リーグ開幕戦が開催された。三重県ソフトボール協会では県内各地からバス3台をチャーターして21日の試合を見学した。ナゴヤドームではたくさんの観客が訪れ盛況のうちに二日目が開催された。

【開幕節2日目の試合】

第1試合 戸田中央総合病院 8－0 日立マクセル

戸田中央総合病院は渡辺瞳選手のセンター越え3点本塁打などで得点を重ね見事完封勝利を飾る。

第2試合 太陽誘電 1－0 Honda

7回まで両チーム、ノーヒットノーランの緊迫した試合。勝負を決めたのは8回タイブレーカー、太陽誘電は石濱真実選手のセンター前適時打で貴重な1点を入れ勝利をものにした。両投手なかなかの力投、藤田倭投手バックの守備にも支えられ、4つの四死球を出したがノーヒットで完封。Hondaのメロー投手はワンヒット、9奪三振の好投が光った。

### 第3試合 トヨタ自動車 8－0 ルネサスエレクトロニクス高崎

トヨタは初回3番長崎望未選手のレフトオーバー2点本塁打で上野投手を打ち砕く。5回には相手投手の制球難と守備陣の乱れをついて打者一巡の猛攻で一挙5点を入れ、勝利をものにした。ルネサスも初回、アボット投手の立ち上がりの制球難をついで、走者満塁としたが、おしくもアボット投手に三振に打ち取られたのが残念。後半は立ち直ったアボット投手を攻略できなかった。

世界野球連盟とソフトボール連盟が連携して世界野球・ソフトボール連盟を作ってオリンピック種目への復活をめざす活動として今回の日本女子1部リーグの開幕戦は大きなステップとなった。

4月20日（土）の試合結果。

- ① ペヤング 3－0 シオノギ製薬
- ② 日立 1－0 S Gホールディングスグループ佐川急便
- ③ 豊田自動織機 1－0 デンソー

## 観戦に出かけた三重県協会メンバー

4月21日のナゴヤドームでの観戦に出かけました。このほかもう2台志摩・伊勢と伊賀・鈴鹿・四日市・桑名からのメンバーも参加しましたが写真はありません。残念

## 男子リーグ、好天に恵まれ本塁打合戦で激しい試合展開をする

4月14日（日）男子リーグ第2節が桑名市の深谷球場と北部球場で開催されました。この日は天気にも恵まれ各チームとも打線が好調で各試合3本以上、合計40本の本塁打が飛び出し、点の取り合いの中激しい試合が展開された。その結果第1節に続き、スカイラークスが好調で上手な試合運びで2勝を飾り、ALLSTARSもやっと打線に火が付き2試合とも大量得点で2勝を飾った。

明和クラブ、大和クラブ、亀山クラブ、松和自動車学校ジャガーズはそれぞれ惜しい試合を落とし1勝1敗、紀北ファイターズ、三重県庁は先週の戦いで疲れが来たのかあと一本がでず2敗となった。

【試合結果】9:00～

① 松和自動車学校ジャガーズ 0－10 ALLSTARS 4回得点差コールド

② 紀北ファイターズ 11－12 亀山クラブ

11:00～

③ スカイラークス 9－4 明和クラブ

④ 大和クラブ 11－4 三重県庁 5回得点差コールド

13:00～

⑤ 亀山クラブ 10－17 松和自動車学校ジャガーズ

⑥ ALLSTARS 25－10 紀北ファイターズ 5回得点差コールド

15:00～

⑦ 三重県庁 9－11 スカイラークス

⑧ 明和クラブ 12－11 大和クラブ

## 三重県クラブ男子・女子選手権大会が開催

4月7日、昨日の低気圧の襲来で大雨が降った後、グラウンドコンディションがあまり良くない中、紀北町の赤羽運動公園でクラブ男子・女子選手権大会、実業団選手権大会を時間を遅らせて開催した。今日の試合も強風が吹く中だったので各試合とも大変な苦勞の連続だった。

しかし、いずれの大会も無事終了しそれぞれ優勝チームが決まった。

4月7日 【準決勝】

A L L S T A R S    8ー0    紀北ファイターズ

明和クラブ    5ー4    大和クラブ

【決 勝】

明和クラブ    10ー7    A L L S T A R S

明和クラブが前半から押し気味に攻め、6回には9ー7と接戦になりかけたが7回明和クラブがダメ押しの1点を追加し、勝利をものにした。A L L S T A R Sも7回、二死、一、二塁と攻め立てたがあと一本が出ず涙をのんだ。

**明和クラブが優勝**

優勝チーム及び準優勝チームは東海大会（5月4日～5日／静岡県藤枝市にて開催）に出場する権利を得た。

**三重県クラブ女子選手権大会女子決勝**

4月7日、紀北町赤羽公園グラウンド多目的広場で開催される。

【決 勝】

（球審）中野秀典（一塁）小島正樹（二塁）川本伸二（三塁）大崎公二（記録）谷口恵美子

M a r i n e ・ G    5 0 3 0 0    8        5回コールド

S w i t c h i        0 1 0 0 0    1

<バッテリー>

（先攻）○    水谷   梨絵    —    永尾   奈都美

（後攻）●    中村   愛美、関村   菜    —    加藤   京子

<長打>

（先攻）（三）高岸   宮由来

(後攻) (本) (三) (二)

【戦 評】

M a r i n e ・ Gは初回、相手投手の立ち上がりを攻め、1 番四球と2 番本田の内野安打、W Pで三進し、F Cで1 点を入れ、6 番曾山の内野安打、7 番永尾のセンター前ヒット、四球、相手失策などで2 点を追加した。3 回には8 番岩城の内野安打、9 番牟田の投前バンド安打、1 番高岸宮由来のレフトオーバー2 点適時三塁打などで3 点を入れ、勝負を決めた。S w i t c h iは2 回、4 番加藤の四球、5 番城田の犠打で二進し、7 番村井のショート強襲ヒットで1 点を入れたが、後続なく涙をのんだ。

**M a r i n e ・ Gが東海大会**（5月4日～5日／静岡県藤枝市にて開催）の出場権を獲得した。

## 三重県実業団選手権大会の開催

4月7日、紀北町赤羽公園グランド野球場で開催。大変風が強かった。風に乗って本塁打も多く出た。

【決 勝】**三重県庁、長打攻勢の大量得点で勝利をものにする。**

(球審) 高須孝治 (一塁) 川上真也 (二塁) 近藤智哉 (三塁) 尾浦寛典 (記録) 大西英明

三重県庁 3 3 1 0 0 6 2 1 5

旭化成 1 0 0 2 0 5 0 8

<バッテリー>

(先攻) ○ 大西 雄一 — 野村 太郎

(後攻) ● 後藤 寿裕 — 高野 透

<長打>

(先攻) (本) 伊川智之、倉田昌彦 (三) 中野 孝、丸山勝彦 (二) 倉田昌彦、伊川智之

(後攻) (本) 田村昇三、儀賀康司、後藤寿裕 (三) (二) 高野 透、後藤寿裕

【戦 評】

三重県庁は初回、5番伊川智之のセンターオーバー3点本塁打で先制し、2回には8番、橋井のレフト前ヒット、9番野村のセンター前ヒット、1番浅沼の二遊間適時打などで1点を入れ、3番倉田昌彦のライトオーバー適時二塁打で2点を追加し、この回3点を入れた。6回には3番倉田昌彦の2点本塁打をはじめ、5番伊川のセンターオーバー二塁打、7番中野 孝のライトオーバー適時三塁打などで合計6点を入れ、試合の流れを引き寄せた。最終回にも死球とセンター前ヒットで出塁した走者をおいて、4番丸山勝彦がセンターオーバーの2点適時三塁打を放ち2点を入れ、勝負を決めた。

旭化成は初回、3番黒木の内野安打、4番高野 透のライト前適時二塁打で1点を入れ、4回には5番田村昇三のレフトオーバー2点本塁打で2点を入れ、6回には3番黒木のライト前ヒット、4番高野の二遊間ヒット、6番水谷の三遊間適時打で1点、7番儀賀康司のセンターオーバー3点本塁打と9番後藤寿裕の本塁打などで合計5点を入れ追い上げを見せたが、あと一歩及ばなかった。

優勝の三重県庁及び準優勝の旭化成は東海実業団選手権大会（5月18日～19日／三重県津市にて開催）に出場する権利を得た。